

緑の風が気持ちいい、そんな素敵なまちづくり

緑はまちの宝物

新たな街並みが形成されていく白岡市において、これまで市民生活とともに育まれてきた自然の豊かさは、より貴重なまちの資源となってきました。

こうした背景を踏まえ、市では新しい街並みと自然が共生した、緑豊かで潤いのあるまちづくりを推進しています。

緑を増やすには

みなさんの周りで緑を増やすにはどうすればいいのでしょうか？ここでは、緑を増やす方法の一例を紹介します。

○例えば駐車場を緑化すると・・・

コンクリートやアスファルトは蓄熱効果が高く、冷めにくい性質であるため夜になっても気温が高いままです。駐車場を芝に置き換えた場合、水分を吸収し保持するので気温の上昇を抑えられます。また、照り返しも少ないため、日差しが強い時期でも涼しく感じられるメリットもあります。



○環境にもお財布にも優しい緑のカーテン♪

ゴーヤで緑のカーテンを設置した場合、日差しを遮り、葉から水分を蒸発させ周りの熱を奪うことで、室内温度の上昇を抑えられ、エアコン代の節約になります。

また、育てたゴーヤを収穫し食べることで食費の節約にも。



○低木や鉢植えでも OK

庭の広さや雰囲気次第では低木を選んでもかまいません。

また、「庭はないけど緑を取り入れたい」という場合には、鉢植えがおすすめです。

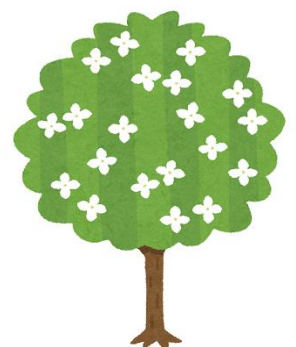
鉢植えであれば、土面のない玄関前やバルコニーなどの狭いスペースにも配置しやすく、レイアウト変更も手軽に簡単に行えます。



○シンボルツリーを植えてみよう！

一般にシンボルツリーは、その家の目印となる象徴的な存在であることから、大きく生育する樹木が選ばれます。四方に枝を伸ばす樹木があると、敷地内への視線が遮られ、プライバシーが守られるのです。壁やフェンスで囲い込んでガードするよりも、より自然に目隠しの役目を果たしてくれます。それに、大きな樹木で建物が一部隠れることによって、家の外観の威圧感が和らぎ、街並みに調和しやすくなることもメリットの一つです。

一方で室内から見れば、樹木が広げる枝葉が強い日差しを遮るとともに風除けにも。この緑のカーテン効果で建物内の居心地もよくなります。また、耐火性のある樹木は火災の延焼防止に役立つとされ、住宅の周辺で火災が発生した場合に自宅まで火が移るのを防ぐ効果も期待できます。



シンボルツリーのお手入れのポイントや気をつけておくことは？

実際にシンボルツリーを植えた後、どのような手入れをすればいいのか、そのポイントや気をつけておくことを紹介します。

○手入れの方法や周期をチェック

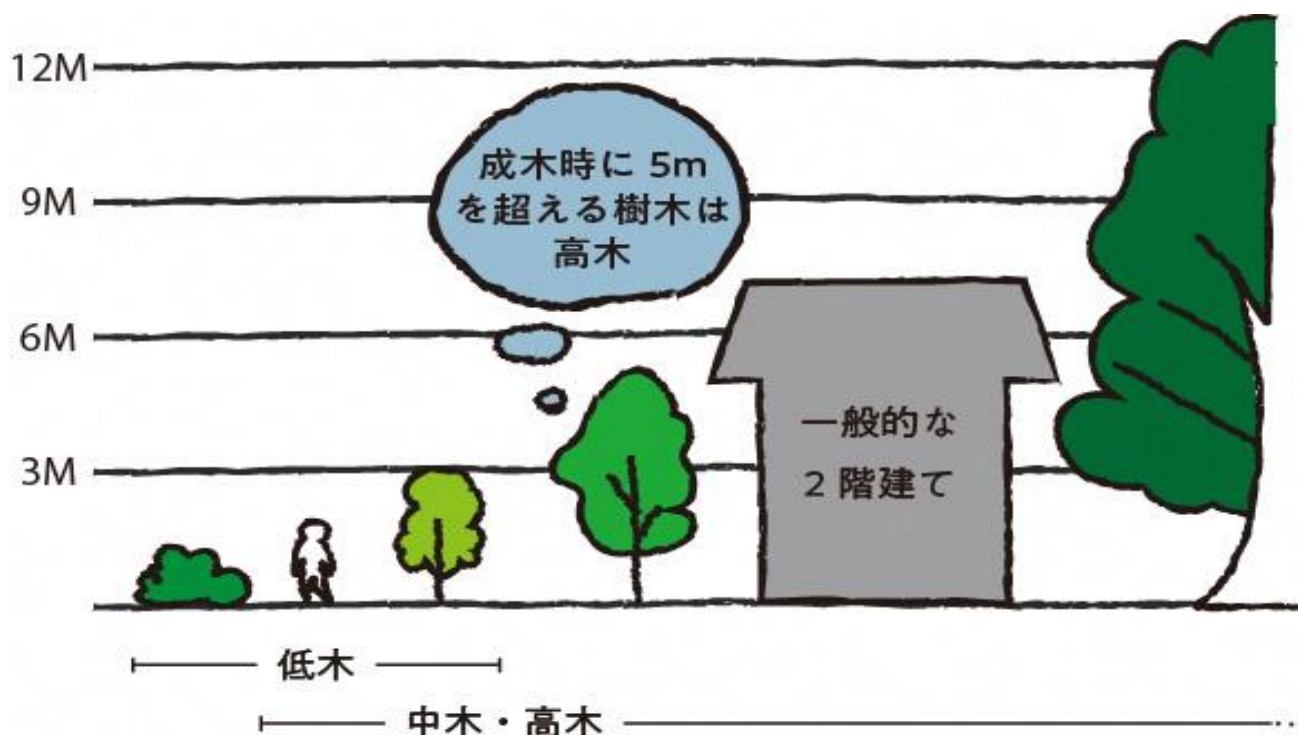
お手入れが面倒なら、成長が遅く、手入れが楽な樹種を選ぶことです。成長速度やお手入れ方法は、樹種や時期にもよります。

○成長後イメージしてプランニングを

その木がどのくらいの速度でどこまで成長するかを事前に把握しておくことも大切です。それが、お手入れの周期にも関係してきます。

○ご近所への配慮

ご近所トラブルになることがあるので、境界の近くに成長の早い木は植えない方がいいでしょう。また、実を付ける木の場合、隣地に実が落ちないように、枝が伸びてきたらこまめに剪定してください。



潤いのあるまちを目指して

まちの中の緑は身近な自然と四季折々の変化を我々に感じさせ、美しいまちの景観をつくってくれます。また、災害を未然に防ぐ役割も担ってくれます。

新しく公園・緑地をつくったり、農地・社寺などの自然環境を守るだけでなく、みなさんの敷地にも緑を増やして、潤いのあるまちにしませんか？

白岡市生活経済部環境課（〒349-0292 埼玉県白岡市千駄野432番地）

電話：0480-92-1111（内線284・285）

E-mail：kankyou@city.shiraoka.lg.jp